

令和元年度第3回「鳥取市総合企画委員会」各報告に関するコメント

鳥取市総合企画委員会/委員長 殿

前略、本日の委員会に予定の行事があり、欠席させていただきます。
本日の各報告につき、事前に拝読いたしましたのでここにコメントとして提出いたします。

令和2年2月14日
鳥取商工会議所 副会頭
坂本 直

1 資料1. 第10次鳥取総合計画基本構想の変更について

・問題なしと存じます。

2 資料2. 鳥取市民アンケート結果の分析について

- ・市民サービスに関する項目の満足度が低い。→ 不満とする項目を注視し、その根本原因に訴求する必要があると感じる。
* 税負担と行政サービスのバランスも検討する必要がある。
- ・鳥取市が優先すべき施策の質問事項は、どの項目もあることが望ましい項目となっているため、アンケートの目的、即ち結果の分析から何を捉えるかが、不明と感じる。すぐやれることとすぐには出来ないことの混在や、高齢vs若年や既婚vs未婚など立場や年齢により判断が偏る項目の混在も分析を困難にしているのではないかと感じる。
→ アンケートの目的を明確にして、アンケートの設計を精緻に行う必要があると感じる。
- ・若者定住の取り組みについて、就職支援が飛び抜けて多い(65.5%)。就職支援とは具体的な施策として何を指しているのか？
→ 就職支援(具体策)を行えば若者が定住するのであれば即刻やるべきではあるが、そのような妙案は本当にありますか？
→ 仕事づくりと人づくりを一体化した支援策が、就職支援につながるとは思いますがいかがでしょうか？

3 資料2-1. 大学生アンケートの結果分析について

- ・卒業後の進路について、首都圏が増加。出身地が減少している。→ 首都圏一極集中がさらに進んでいる。
- ・県内就職の理由として、生活的要素(暮らしやすさ、友人との交友など)が増加、企業の採用増も影響している。
→ 一定数の地元就職を望んでいる学生は存在する。企業、地域が積極的に呼びかければ県内定着は増えると思います。
- ・県外就職希望者は、その理由が県内就職者と反対の理由となっている。→ 鳥取を閉鎖的と感じる学生が増加している。
→ 地域に魅力的な地場企業を作っていく不断の努力が必須と考える。
- ・定住の意向について、「わからない」は「定住したくない」に近いと判断すべきです。→ 「定住したい」が減っていることを注視すべきだと思います。

4 資料2-2.

- ・県内大学進学がやや増加。県内就職は微増(横ばい)。理由は、経済性、生活環境など。大学生の就職と同じ様相と思います。
- ・一方、県外大学進学は、大学生と同じ理由。→ 即効性のある対策は見えていない。
- ・定住の意向は、高校生は「わからない」が普通。→ 前回とあまり変化がない。「定住したくない」理由は納得できる。
→ 寧ろ、大学卒業後の進路選択に対する対策が重要と思います。
* 県では、高校卒業後も本人および家族に県内情報などを継続的に提供する施策を考えているようです。

5 次期総合計画及び第2期鳥取市総合戦略策定に関して

- ・スケジュール案に関しコメントはありません。第10次の結果の分析を踏まえた次期計画のプロセスを着実に実行いただきたいと思います。

以上